

## 甲状腺外科草子 52

### 古文復習：冬の静けさ

杉野 圭三

冬の歌で最も有名なのは万葉の歌人、山部赤人の歌であろう。

田子の浦に うち出でてみれば白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ (百人一首 四)

雪と富士山を詠んだ雄大な風景の歌である。万葉集では「田子の浦ゆ うち出でて見れば 真白にぞ 富士の高嶺に雪は降りける」とされており、この2つの歌について昔から様々な解釈がある。その一つは雪が降っていたら富士山は見えるはずがないという論理である。

言われてみれば確かに正論である。雪の写真撮影で一番困るのは、雪中での撮影機材セットである。レンズやカメラ本体への雪の影響と露出設定が難しい。雪が止み太陽と青空が出れば素晴らしいコントラストになるが、その様な幸運に恵まれることは稀である。



平和公園に雪は降りつつ 同 降りける

百人一首には他に四首の冬の歌がある。

鶴の渡せる橋に置く霜の白きを見れば、夜ぞ更けにける (同 六、中納言家持)

山里は冬ぞ寂しさまさりける人目も草もかれぬと思へば (同 二十八、源宗行千朝臣)

朝ぼらけ有明の月と見るまでに吉野の里に降れる白雪 (同 三十一、坂上是則)

花さそふ嵐の庭の雪ならでふりゆくものはわが身なりけり (同九十六、入道前太政大臣)

古今和歌集や新古今和歌集にも多くの冬の歌がある。清原深養父の歌を紹介する。

冬ながら空より花の散りくるは雲のあなたは春にやあるらむ (古今和歌集三百三十)

雪の降るのを見ながら、「雲の向こうは春なの

か？」という発想は素晴らしいものがある。しかし、百人一首に採用された歌は、三十六番の「夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月宿るらむ」であった。これも雲間の月を詠んだ素晴らしい歌である。



Cold Moon(2022年12月8日) 皆既月食(2022年11月8日)

「枕草子」冒頭には「夏は夜。月のころはさらなり」と書かれている。清原深養父は清少納言の曾祖父、清原元輔の祖父とも言われ、文学の才能に恵まれた一族である。



雪のサザンカ

雪の南天

和歌を詠む上で、色彩に富んだ風景や花は欠かせないが、冬は花が少なく彩に欠け、灰白色の世界の印象が強くと不利である。

藤原定家の歌に「駒とめて袖うち払ふ陰もなし佐野のわたりの雪の夕暮れ」(新古今和歌集六七一)がある。歌の情景で「雪の夕暮れ」以上の侘しさはないであろう。



白梅



ハルサザンカ「笑顔」

小野篁も冬の歌で白梅と雪を詠んでいる。

「花の色は雪にまじりて見えずとも香をだに匂へ人の知るべく」(古今和歌集三三五)

梅は寒々しい冬に咲くが、上品な色彩と華やかで優美な香りは春の訪れを期待させる。白梅の香と雪を対比させた秀歌である。

参考文献：百人一首、古今和歌集、新古今和歌集、ビギナーズクラシックス、角川ソフィア文庫

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2023年1月12日